

松平地区 豊田市合併 50周年

わたしの思い出

みなさんから寄せられた思い出のメッセージをご紹介します。

50周年を祝って

豊松 河合 登



豊田市合併50周年、そして記念誌発行の祝賀に
対し、ほんの僅かではあり
ますが過去を偲び、将来
の発展を希望したいと思
います。

私はこの土地で生まれ
育ち、多くの皆さんに助
け支えられ、仕事の大半
は小・中学校、区長会等こ
の松平でさせて戴きまし
た。

昭和45年豊田市との合
併。古くから住む住民感
情は簡単なものではな
かったようです。豊田市と
合併するかしないのかで、
岡崎との経済交流や子ど
もたちの通学に関するこ
とを理由に大揉めしたこ
ともありました。昭和51
年に発行された松平町誌

の編纂に加わらせていた
だいた時も当時のことが
よく話題になりました。い
まだに話題になることが
あります。

九久平・松平志賀・岩
倉そして幸海等に新しく
住宅が生まれて来るにし
たがって町の暮らしにも
変化が現われてきました
。新鮮な、しかも躍動感
のある暮らしの雰囲気
を感じ取る思いがしたので
す。特にコミュニティ活動
の中において肌を感じ取
るようになりました。

昭和63年に区長会の組
織を中心に、「松平地区ま
ちづくり協議会」、次いで
平成4年から「松平地区
まちづくりの見直し」を
すすめ、さらなる発展をめ
ざしました。この組織の特
色としては「地域会」を構
成して、自分達の住んでい
る身近な所から何をどう
進めていくかを主題とし
て取り組みをはじめました。
これらに基づいての活
動の実態が各所に見受け
られています。観光的な

場所や道路沿いの桜並木
とあじさい街道。消防署
松平出張所から、中垣内
区民会館あたりに観られ
る桜などがその証です。

巴川金魚花火も復活い
たしました。松平地区に
統一された電話帳がな
かったので平成11年に区
長会を中心にして作成い
たしました。経済発展や
交流に寄与することがで
き、今も重宝がられてい
ます。

松平地区は、中山間地
で生産・経済性・労働条
件の不遇な地であるが、一
方中山間地特有の自然風
貌、日頃の労働の場所や
必需品の入手、そして交
遊等を思うとき、正に恵
まれた地域であると考え
ます。だからこそ自然と
歴史に恵まれた文化のま
ち「松平」と言えるのでは
ないでしょうか。文化とは
何か、幸せになる文化を
みんなで作りあげるよう
努力しましょう。

今昔の思い



大内 宇野 忠男

松平地区が豊田

市と合併し、半世紀
が経ちました。当時
の松平は大きな産
業や突出した観光
もなく将来の先細
り感がありました。
そんな中で、財政的
にも裕福な豊田市
との合併が成立し
道路など投資的経
費も注がれ生まれ
た松平地区になっ
た思い出がありました。

この50年の思い出
は20数年前に自治
区の総会中に地震に
見舞われたことで
す。震度3でしたが
中々の強さを感じま
した。被害は公民館
の屋根・神社の鳥
居・石灯籠・登り立
ての石座などの一部
損壊でした。当時の

区長さんに修繕面
で大変だったのは
と尋ねたところ、区
民の強い意志で再建
できたと感謝され
ておりました。

その頃の区は世代
的にも活力を感じ
ました。しかしなが
ら現在並びに今後
を鑑みると高齢化
が益々進み、必然的
に難儀な時代になっ
ていくのかと思われ
ます。したがって、今
後大規模災害を含
め、今までの50年と
今後の50年は全く
違った展開が予想さ
れます。非常時には
地域の結束力が求
められます。そのた
めには、いろいろな
課題を整理し、皆で
知恵を出していくこ
とが必要ではないで
しょうか。

合併50年 岩倉地区の変貌

岩倉 宇野 祥敏



の児童数は150名から4倍以上の700名近くになり、校舎も新築された。

往古たくさんの川

かつて松平は、豊かな自然・歴史・文化を擁していることから豊田市の奥座敷と称されていた。昭和45

年、豊田市に編入合併され、東加茂郡松平町は消滅した。社会人として新たな

一歩を踏み出そうとしていた当時の私は、「松平町」が消える寂しさと同時に、近代都市に生まれ変わるこ

とへの期待と希望に胸をふくらませた。以来50年、地域の

変貌は誠に著しい。岩倉学区には、岩倉東・巴・松平志賀に大型団地が造成されて750戸が誕生、松平で最も人口の多い学区となった。岩倉小学校

区民会館の建設

長沢町 柴田 達男



豊田市に合併する前は、「大字長沢西」と

「大字長沢東」と2つの自治区であったが、合併時に「長沢町」と

一つになった。新たにできた長沢町の行事等を円滑に

執り行うには区民会館が必要との町民の

思いから、東西の真ん中に位置する場所に

区民会館を建設することになった。適地として選択し

たこの土地は、Nさんが所有していたため、土地の譲渡をお願いしたが良い返事をも

らえず、役員3名で再々に渡ってお願いたところ、稲荷神社の

山林2反部とNさんの土地2反部を交

換、そして区民会館の敷地内に神社を祀るという条件で承諾を得ることができた。

(区民会館の敷地内に秋葉神社が祀ってある)

それから建設工事に移ったが法令の壁にあたり、ここでも何

度も関係機関に足を運び、平成3年にやっと完成に至ることができた。

合併と同時に区民会館建設の話が出てから実に20年を費やした。合併から50年を迎える今でも、所有者であったNさん、役員をはじめとした町民の皆様の絶大なご協力に深く感謝する次第である。

鍋田の50年

鍋田 加藤 鋒男



50年前は、仕事を地元松平に変えたばかりで、合併時の事はあまり把握していません。ただ町内は織

維業界が工場を止める時期であったことを思い出します。当時は岡崎が中心で

あり、買い物、娯楽に1時間、買い物、娯楽に1時間

あり、買い物、娯楽に1時間

あり、買い物、娯楽に1時間

あり、買い物、娯楽に1時間

あり、買い物、娯楽に1時間

間一本の路線バスを利用していました。豊田市とは、日に4本位の路線バスしかなく、トヨタ関連企業に働く人は、自転車に乗り、曲がりくねった砂利道を通っていたことを思い出します。

当時の鍋田は県道が狭く土砂災害危険区域で、河川整備も無く自然災害危険区域と云わざるを得ない状況でした。

合併後、擁壁工事、河川

対策、県道拡幅工事を経

て現況の整備ができました。これは、当時の区長さんを始めとする取り組みの成果であったと思います。

また、念願の区民会館の完成(平成12年)で住民一同歓喜した事が忘れられません。

町内は高齢化が進み、過疎化が進んでいます。将来を考えると若者の町外転出防止等の対策を考えていかなければならないと考えます。

加茂川橋

加茂川町 鈴木 圭子



1985年(昭和60年)3

月、郡界川の中流「豊田市加茂川町天下」に、わが町初の2車線道路の立派な「加茂川橋」が完成しました。豊

田市加茂川町は郡界川を市境に岡崎市と東西に並行す



る細長い地形をしています。

「加茂川橋」を渡ると、地名は「岡崎市川向町井セギ」に変わります。

竣工式は、正装に身を包んだ大勢の関係者、町民が集まり、盛大に行われました。

昭和初期にはリヤカーが通れる程度の木造の橋があったようですが、台風で流され、加茂川橋ができるまでは、川の飛び石に板が置いてあり、歩いて渡っていました。子どもの頃天下で遊んだ時、板の上を怖々渡った記憶があります。

あれから35年、橋は健在で、ウォーキングに、サイクリングに、生活道路の一部として私たち自治区になくてはならない大切な橋となっています。

「友愛、協力、発展の鵜ケ瀬町」 市合併後五十年間の町の主な変遷

鵜ケ瀬町（文） 黒柳 照夫



1 松平橋と国道301号バイパス工事

老朽した松平橋の新2車線と歩道が平成17年3月に開通した。そして、平成29年より国道301号バイパス工事が始まり、豊田市街地より4車線となった。待望のトンネルが鍋田町より大内町へ、全長820メートルで、令和3年完成と工事は進行しており、下山、新城方面は短時間で駆け便利となる。

2 双龍橋と新双龍橋



道路拡張工事で、平成13年新双龍橋ができた。大正10年9月にできた双龍橋は取り壊される予定でしたが、豊田市には眼鏡橋がめずらしく、補強して歩道橋として使用し、新双龍橋は車道専用橋として使用されるようになった。

3 2つの団地の造成

・鵜ケ瀬団地（松平高校前）平成14年より造成。平成16年より入居開始、現在86戸。
・澤団地（2組）平成20年より入居開始。現在35戸。

4 巴川ぞい301号川側竹林伐採

平成30年より国道301号ぞいの土地の竹林伐採が区民の協力で始まり、毎年実施している。伐採した後はきれいになり、清流を眺めながら行きかう人々からは川の美観にあえてすばらしいと称賛の言葉をいただきます。今後とも継続していくことで、今後もこのように鵜ケ瀬町も大変化しつつ発展の道をたどっています。

（資料・写真） 黒柳 博和

林添50年の流れ

林添町 柴田 一美



50年前の昭和45年、松平地区も合併の道を選びました。当時の諸先輩の方々の並々ならぬ努力に對し厚く敬意を表したいと思えます。

当地区は古くから岡崎市との係りが強く、多くは家内工業の紡績で生計を立てていました。若者たちが自動車関連企業に就職し始めた昭和48年に私も会社勤めを始めました。軽自動車で砂利道を長時間かけて通う苦勞の始まりでした。大内町の曲がりくねった滝川沿いの旧道を見ると当時の様子が懐かしく蘇ります。

自治区内を通る主要地方道豊田新城線の国道昇格により、道路整備が一気に進み、滝川に架かる戸井田橋も安心して渡れる橋になりました。水道

水も全世帯に送水されるようになり、築40余年の児童館が新しい区民会館に生まれ変わりました。その時々時代に即した発展に接し、恵まれた時代を過ごす有難さは何物にも代えがたい体験であり、残り少ない余生の思い出になるものと思っています。

半世紀の間に、我が家では娘が結婚し孫3人に恵まれ、ひ孫も授かりにぎやかな世帯になりました。一方で高齢者のみの世帯が増加している現状があります。こうした中、ボランティア精神をもって地域に貢献できる若者に新しい自治区の未来を築いてほしいと思えます。

最後に、松平地区のためにご尽力くださった市当局並びに地域住民のご支援とご協力を深く感謝し、今後この地区が一層の発展することを期待しています。

長沢もみじウォーキング

長沢町 柴田 澄子



事の始まりは、長沢町を知らない人が多いと知ったこと。知っていたくには？と考え毎夜のウォーキングが日課の女性会に相談し、今歩いているコースを皆で歩こう、もみじのきれいな所があるから「もみじウォーキング」としようと決定。1回目は女性会主催で看板等も手作りで町民参加の会として始めました。持ち寄りで五平もち、おしる粉、豚汁のサービス。回を重ねると多くの方が参加してくれ大きな大きなウォーキング大会に。途中から長沢町主催となり全町民協力のもと、会議を重ね準備万端で盛大に出来ました。

第10回は330名分準備したのに400名近い人出で1人2本の五平もちが1本となったり、おしる粉、豚汁がなくなったりと参加者に大変ご迷惑をかける結果となっていました。が、10年間事故もなく無事に終われたことは町民の誇りとなったことと思えます。自慢となるのは一度も雨が降らなかつた事、皆の心がけが良かったのでしよう。

ほんとうに多くの方々のおかげで行事を楽しんで長沢町を知っていただく目的が達成できたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

学校道完成 「市道松平日影線」

滝脇町 中根 富文



昭和40年から昭和50年ごろ、モーターリゼーションの到来。一般人でも手の届くカローラの生産が始まりました。松平町の職業は農業、ガラ紡業主体からサラリーマンへの転換期で自家用車通勤ができるようになりました。

滝脇の住人が豊田市合併の思い出を語る時、忘れることができない史実は、「市道松平日影線」の幅員8m舗装道路開通にあります。先人の努力のおかげで松平町が豊田市合併へのつながる役割を果たしたと思います。



昭和40年に松平町議会はやれる所から町の道路の拡幅、視距改良を決断しました。学区は役場を扇動し、いち早く手を挙げ、滝脇小学校生徒が安全に通学できる道路の整備を考えました。松平町は合併前に「市道松平日影線」整備の決断をし、合併協議で継続工事となり、昭和57年に国道301号から県道花沢桑原線まで拡幅され、曲がりくねったカーブがとれて安全な舗装された学校道が開通しました。開通式典は滝脇小学校で挙行されました。また校舎やプールの新設整備等も行われました。祖先松平詣でに家康も通った松平往環(菱の道)がよみがえる。合併当時のあかし「市道松平日影線」(通称学校道)の開通の歴史を此処にご紹介をさせていただきます。



松平町大字長沢から 豊田市長沢町へ

長沢町 柴田 浩



長沢町は郡界川を挟み岡崎市に接している、県道には名鉄バス大沼線が運行しており昔から生活圏は岡崎でした。50年前豊田市への合併問題が起きた松平町議会は、旧松平全域での合併を申し込みましたが、長沢は分村合併をお願いしました。毎夜長時間にわたり町長、議員等を交えての話し合いが行われ、最終的に長沢住民は承諾いたしました。合併条件として松平中学校への通学手段が確保できるまで、岡崎市立常盤中学校への通学を認める事(現在は松平中学校へスクールバスにて通学している。)及び通称滝脇小

学校通学路を早期に完成する事でありました。合併以前は長沢東より山を越え田のあぜ道を通学していました。昭和57年12月4日に当時の西山市長、河合市議会議員、滝脇小学校児童ブラスバンドをお迎えして通学路開通式を行い、以後安心して児童は通学しております。松平地区の住民でも長沢町がどこにあるか知らない方が見えましたので、平成22年より「長沢もみじウォーキング」を始め、区域内外多数の参加者にて10年間無事に終了いたしました。合併して長沢住民も松平地区住民との交流が活発となり、全国区豊田市の一員になった事大変良かったと思っております。

松平町が豊田市へ 合併50年の 記念誌発刊について

幸海町 佐藤 徳壽



私は、愛知県教育委員会豊田教育事務所に昭和38年から勤務していきまして、豊田市及び西加茂郡の小中学校の教職員の給与の支払い事務をしていました。

当時は、大阪万博が開催されていまして、教職員の研修の企画・立案・実施と大変忙しい仕事となることが想定されました。その時、松平町が豊田市へ合併(昭和45年4月1日)することとなり、その事務手続きを足助教育事務所から引き継ぐ必要がありました。その後は愛知県庁へ異動し、県下の教職員の給与事務処理を13年間しました。



豊松小学校校舎新築移転(1977年)



松平高校造成工事中(1969年)



みなさんから思い出写真を募集しました。
市の広報課（現市政発信課）や松平支所などで撮影した写真とともに応募のありました写真の一部を紹介します。今は姿を変えた施設、行われなくなったイベントもあります。



幸海町白瀬地区と王滝町を結んでいたつり橋



九久平小学校木造校舎お別れ式(1987年)



太田川で水遊びをする子どもたち(1971年)



松平ヤナ(1971年)



旧港橋岩倉側からの様子(1980年)



滝脇小学校(1969年)



幸海小学校(1969年)



松平保育園(1969年)



岩倉小学校(1981年)



コミセン前巴川沿い桜並木(2006年)
(九久平町 山本良彦さん)



合併前後のこどもの遊びを再現
ガラ紡の滑車で作ったゴッド車(2017年11月撮影)



旧港橋解体直前(2001年)
(九久平町 柴田盛弘さん)



夏祭り流しそめん(2015年)



春の七草粥を味わう会(2004年)



年末もちつき大会(2017年)



土地改良前の仁王川
(板上町 中根眞澄さん)



お水取り神事(1997年)
(野見山町 山田実智男さん)



区長会年末防犯立哨活動(2015年)



旧松平子ども園の桜(2008年)(九久平町 竹内勇さん)



巴川で空手寒げいこ(1997年) (九久平町 吉村宣昭さん)



ふれあい健康まつり(2017年)



宮口音頭盆おどり(2015年)

あとがき

記念誌部会長 河合 政美

先人のたゆまぬ努力により、令和2年に豊田市と合併50周年を迎えました。今日ある松平の繁栄を地区民で祝うため、平成30年に企画委員会が発足し毎月の会議で組織づくりや記念誌の大まかな構成を行いました。平成31年より記念事業実行委員会となり、式典、イベント、協賛、記念誌部会が組織されました。

令和元年12月のプロ野球広島東洋カープの磯村嘉孝選手のインタビューを皮切りに記念誌原稿づくりが始まりましたが、新型コロナウイルスがまん延し、イベントが実施できず、小学校の運動会での地域集合写真撮影もできなくなるなど、記念誌の内容を変更せざるを得ないことが多くあり残念でした。しかし、変更後の企画は、子どもたち、保護者のみなさま、先生方にくぐ協力いただき、すてきなページとなりました。子どもたちには、絵画、作文、ガーランド作りにも協力していただきました。権現祭りの際に予定していた、松平家当主松平輝夫氏と高月院住職田中祥雄氏との対談は、お二人のご厚意により東京で実現いたしました。

令和3年3月

松平地区 豊田市合併50周年 記念事業実行委員会 記念誌部会	部会長 河合 政美	副部会長 酒井 邦雄	副部会長 粕谷 浩二	副部会長 小野田 秀夫	大原 博通	柴田 浩市	柴田 金年	平松 学	伊藤 大佳
---	--------------	---------------	---------------	----------------	-------	-------	-------	------	-------

松平地区豊田市合併50周年 記念事業実行委員会

(敬称略・順不同)
※記念誌部会実行委員を除く

会長 中根 計二	副会長 加藤 勝信	副会長 鈴木 隆之	幹事 榎本 太四郎	幹事 山本 良彦	幹事 高橋 誠	幹事 阿部 輝詩	幹事 岡田 清	幹事 大地 和弘	監事 石黒 英男	委員 磯谷 義貞	委員 宇野 和夫	委員 岡野 文治	委員 小野田 勝己	委員 黒柳 博和	委員 酒井 眞	委員 佐野 勝之	委員 柴田 信之	委員 鈴木 昭弘	委員 鈴木 敏道	委員 鈴木 耐司	委員 服部 博	委員 古川 悦次	委員 三好 隆章	委員 横井 大輔	委員 成田 正人	委員 蟹 博文
-------------	--------------	--------------	--------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------

参考文献

書名	編集者	発行者	発行年
松平町誌	松平町誌編纂委員会	豊田市教育委員会	昭和51年
私たちの松平 一松平地区自治区紹介一	松平地区区長会	松平地区区長会	平成28年
特別展 川をめぐくらし	豊田市郷土資料館	豊田市教育委員会	平成14年
上郷・豊田合併50年のあゆみ 上郷・豊田合併50周年記念誌	豊田市役所社会部 上郷支所	豊田市役所	平成29年
碧海から、豊田市へ。 高岡・豊田合併50周年記念誌	豊田市役所社会部 高岡支所	豊田市役所社会部高岡支所	平成29年
新・豊田物語 豊田市政50周年記念誌	豊田市役所総務部 広報課	豊田市役所総務部広報課	平成13年
猿投町から豊田市へ。 猿投地区豊田市合併50周年記念誌	猿投地区豊田市合併50周年記念事業実行委員会	猿投地区豊田市合併50周年記念事業実行委員会	平成30年
新修豊田市史 概要版 豊田市のあゆみ	豊田市史編さん委員会	豊田市	平成23年
豊田の史跡と文化財	豊田市文化財保護審議会	豊田市教育委員会	平成5年改訂第三版
坂上町誌	豊田市坂上町	豊田市坂上町	平成3年
豊田市区長会50周年記念誌	豊田市区長会編集委員会	豊田市区長会	平成22年

資料提供 (敬称略・順不同)

- 中日本高速道路㈱
- 藤本建設株式会社
- 松平観光協会
- 巴川漁業協同組合
- 豊田市矢作川研究所
- 豊田市役所 生涯活躍部 文化財課
- 豊田市役所 経営戦略部 市政発信課
- 柴田 盛弘
- 野中 直久
- 山田 実智男
- 中根 眞澄
- 田中 正己
- 山本 良彦
- 竹内 勇
- 吉村 宣昭
- 磯村 嘉孝

令和3年(2021年)3月28日発行
編集・発行 松平地区豊田市合併50周年記念事業実行委員会事務局
 (豊田市役所 地域振興部 松平支所)
 豊田市九久平町寺前16番地 電話0565-58-0001 FAX0565-58-0049
編集協力 株式会社 こいけやクリエイト、株式会社 矢作新報社、株式会社 夢現、
 有限会社KK・アルバ
印刷 三河印刷株式会社

※禁無断転載 本書の掲載記事及び写真の無断転載、複写を固く禁じます。





広がる未来 つながる心 WE LOVE 松平

